



企画展

珠玉の

町田市博
×
大津歴博
コレクション

大津絵



平成25年

7月26日<金>—9月1日<日>

休館日：月曜日

観覧料：一般800円(640円) 高大生400円(320円)

小中生無料

※()内は前売り、15名様以上の団体、大津市内在住の65歳以上の方、大津市内在住の障害者の方の割引料金(証明書等をご提示下さい)。

※前売券は、大津市観光案内所(大津駅・石山駅・堅田駅前)、大津市民会館、ローソンチケット(Lコード57401)

をはじめ京阪津地区の主なプレイガイドで7月13日から9月1日まで発売。

主催：大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館、町田市立博物館、京都新聞社

後援：NHK大津放送局・NHK UTV湖放送・radio

大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御陵町 2-2

<TEL> 077-521-2100 <HP> <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>



企画展

珠玉の

町田市博
×
大津歴博
コレクション

大津絵

大津絵とは

大津と京都の境にあたる大津市追分付近は現在、京都東インターや国道1号と国道161号西大津バイパスのジャンクションとなっていますが、実は、江戸時代もこのエリアは、東海道(京街道)と伏見街道が合流するジャンクションであり、旅人・駕籠かき・人足・馬子たちでごったがえす土産物店街が逢坂峠の大谷まで続いていました。そこで人気をさらっていた土産物、それが「大津絵」です。「絵」ではありますが、伊藤若冲や円山応挙らが手がけた床の間を飾るいわゆるファインアートではありません。では何か。それは、旅路を急ぐ人々が、「おやっ」と足を止めて、一目で気に入り、思わず購入してしまう「絵画のキャラクターグッズ」、それが「大津絵」なのです。

もっとも、初期の「大津絵」は、まじめに「仏画」を描いたものであり、手軽な信仰対象として庶民が求める土産物でした。また、「大津絵」のキャラクターは、単に「ゆるく」「かわいい」だけではありません。江戸時代の庶民の気質を反映した風刺や滑稽、教訓が込められていて、それを知ると、「なるほど」と、ついうなずいて買ってしまう。「大津絵」はそんな一目惚れされる土産物だったのです。

展覧会の特色

東京都の町田市立博物館は、日本有数の大津絵コレクションを所蔵している博物館です。しかし、まとまった形で、他館に貸し出されたことはなく、今回、コレクション交流展という形で、初めて、町田市博大津絵コレクションの全てが、関西の博物館にやってきます。

本展では、本館収蔵品もあわせて一堂に展示し、珠玉の大津絵が100点あまり並ぶ展覧会となります。大津絵キャラクターが大集合する会場では、彼らに込められた個々のユニークな意味や風刺、特性(キャラクター)を大図解し、江戸時代、全国区の人気を誇った大津絵の魅力を堪能していただきます。

関連講座 ※有料。事前申込が必要。詳しくは大津市歴史博物館まで。

■7月27日(土) 14:00 ~ 15:30

「合羽揃いで大津絵を描こう」日本大津絵文化協会

■8月3日(土) 14:00 ~ 15:30

「大津絵師 その伝統・技・心」高橋松山(大津絵師 四代目松山)

■8月10日(土) 14:00 ~ 15:30

「対談：大津絵と趣味表具の世界」

岡泰央(株岡屋光堂代表取締役)×横谷賢一郎(本館学芸員)

表写真の作品(左上から)

鬼鼠柱(大津市歴史博物館蔵)、猫と鼠(大津市歴史博物館蔵)、
藤娘(町田市立博物館蔵)、鐘屋(大津市歴史博物館蔵)、
長刀弁慶(大津市歴史博物館蔵)、瓢箪絵(町田市立博物館蔵)、
鬼の念仏(個人蔵・大津市歴史博物館寄託)、節分(町田市立博物館蔵)

裏写真の作品

左上：阿弥陀三尊来迎(町田市立博物館蔵)、左中：十三仏(町田市立博物館蔵)、
左下：不動明王(個人蔵・大津市歴史博物館寄託)、
中：鬼の念仏(個人蔵・大津市歴史博物館寄託)、
右上：雷と太鼓(町田市立博物館蔵)、右中：竹に籠(町田市立博物館蔵)、
右下：外法の梯子(町田市立博物館蔵)

大津市歴史博物館

〒520-0037 大津市御殿町 2-2

TEL 077-521-2100

HP <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>

